

人文科学科令和5年度後期日程入試 小論文
(出題の意図・評価の観点)

問題1 戦争の原因となる事柄の多様性について、課題文の英文を理解して、その内容に基づいて適切な日本語で要約できているかが評価の基準です。

(解答例)

異なる種類の戦争があるため異なる種類の説明が必要となるが、歴史的には、ナショナリズム、(主権・国民)国家、帝国、宗教、経済が複合して戦争の原因となり、また宗教が提唱する現世を超える絶対的価値が、手段としての戦争を正当化する。さらに貧困・不平等や、良質の水、交通、食料、市場、公的サービスが利用できないという地域的ニーズが、国家間の規範や地球規模の政治経済に関する問題と同様に、紛争を引き起こす。

問題2 戦争(ここでは内戦や紛争などの暴力行使一般も含む)について、論じてもらう問題です。この主題には、いろいろなアプローチが可能で、重要な個別の実例をもとに掘り下げた議論を行う場合もあれば、広い観点に基づいて普遍的・一般的な主張を展開することもあると思われます。どちらの解答も可能ですが、前提や結論が明快であること、あげられる事実や例が適切・正確であること、結論に至る議論がわかりやすく飛躍がないことといった、小論文一般の採点基準を満たしていることが、評価されるポイントとなります。戦争は政治学などの社会科学でも論じられますが、思想・宗教、歴史、地域研究といった人文科学の主題とも密接にかかわる重要な現象です。人文科学科を志望される受験生は、こうした側面からの論述によって、自身の人文科学に関する関心や知見をアピールしていただきたいと考えています。